

令和4年度 諸塚村立諸塚小学校

自己評価及び学校関係者評価書

作成日 令和5年3月8日（水）

作成者 諸塚村立諸塚小学校

諸塚小学校学校運営協議会

令和4年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【1 学力向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 学習指導法の工夫・改善 ○ 授業力の向上 ○ 少人数のよさを活かした個に応じた指導 ○ タブレットの効果的な活用	① 授業では自分の考えをまとめたり、友達と話し合ったりする学習場面が適切に設定されているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (99%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのつぶやきや話合いの時間を大切に授業が展開されており、意欲的に学習に取り組むことができています。 授業中に、担任と子どもとの対話があり、楽しく学習に取り組む様子が窺える。 今後も子どもたちのよさや頑張りを褒めて、一人一人を伸ばしていきたい。 	A	今後も学習の中で子ども同士の「話し合い」の場面を設定し、共に高め合うことができる児童の育成を目指していく。
	② 担任の先生は「分かった、できた!」と感じさせる授業を行っているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A				今後も教師一人一人の授業力向上に努め、学ぶ楽しさ・できる喜びを味わわせる授業を実践していく。
	③ 学習調査等の分析結果を生かした、授業づくりを行っているか。（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者94% (100%) 教師89% (100%)	A				分析結果をもとに本校の課題を共有し、課題に対する取組を全体で実践していく。
	④ タブレット端末の効果的な活用により、学習意欲の向上や情報活用能力の育成を図ることができているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者90% (86%) 教師89% (100%)	A				タブレットを活用した授業実践は日々行っているが、効果的な活用までには至っていないため、職員研修等を通して、児童の情報活用能力の育成を図っていく。
(2) 学力向上 ○ 家庭との連携を図った家庭学習の定着 (3) 読書活動の推進 ○ 読書活動の推進 ○ 新聞の活用を図った取組	① 家庭と連携した取組により、学力向上につなげることができているか。（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童93% (99%) 保護者72% (79%) 教師67% (100%)	B	B	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した情報収集では、個人の興味・関心事だけに限定される恐れがあるため、新聞を積極的に活用させることで、様々な情報を子どもたちに与えて欲しい。 地域の図書館を親子で活用するなど、さらに読書活動の推進を図ってもらいたい。 	B	意欲的に家庭学習に取り組むことができるように、懇談会等を通して保護者の考えている課題や学校への要望を伺い、指導の改善を図る。
	② 進んで本を読んでいるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上）	児童94% (100%) 保護者70% (68%) 教師100% (100%)	B				保護者との連携を図りながら、家庭における読書活動の推進も図っていききたい。
	③ 新聞を読んだり、辞書引きをしたりする朝の時間の取組は、学力向上につながっているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上）	児童100% (新) 保護者98% (新) 教師88% (新)	B				今後も朝の時間の取組の質的改善を図りながら、児童の学力向上につなげていく。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和4年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【2 豊かな心の育成】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 豊かな心の育成 ○ 学級経営の充実による望ましい人間関係の醸成 ○ 教育活動全体を通じた指導	① 学級は「いじめ防止プログラム」の実践を通して望ましい人間関係ができているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (99%) 保護者100% (98%) 教師100% (100%)	A	A	・ 全児童が、毎日楽しく学校に登校している様子が窺え、いじめのない学校生活を送ることができていると考えられる。 ・ 3者とも評価が高く、豊かな心の育成がしっかりと図られていると感じる。	A	小規模校のよさを生かして、今後も異年齢集団での様々な活動を積極的に取り入れ、望ましい人間関係の醸成を図っていく。
	② いじめのない楽しい学校生活を送れているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (99%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A				今後も、クラスの枠を越え、全職員一丸となって子どもたちに称賛等の声かけを行っていく。
	③ 相手の気持ちに立つことの大切さや、互いに支え合うことの大切さ等の指導が行えているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (92%) 保護者100% (98%) 教師100% (100%)	A				道徳教育を要として、相手の立場に立って考えることの大切さ・素晴らしさを子どもたちに指導していく。
(2) 基本的な生活習慣の定着 ○ 「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムの確立 ○ あいさつ指導の徹底	① 生活のリズムが整っているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 95% (87%) 保護者 97% (100%) 教師 89% (83%)	A	B	・ 子どもたちの挨拶が年々よくなっており、登校時は元気いっぱいあいさつする児童の姿を目にする機会が増えている。 ・ 家庭においてもしっかりあいさつができるように、保護者を含めた家庭への啓発をお願いしたい。	A	気になる児童に対しては、保護者との個別面談を行い、生活リズムを整える必要性について共通理解を図り、学校と家庭が連携して環境を整える努力を行う。
	② 場や相手に応じた心のこもった元気なあいさつができるか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (97%) 保護者 97% (95%) 教師 67% (83%)	B				場所や場面に関わらず、徹底してあいさつが実践できるように、あいさつへの意識向上を図っていく。
(3) 環境美化の推進 ○ 無言清掃の徹底 ○ みどりの少年団活動の充実	① 無言清掃は徹底しているか(児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (100%) 教師100% (100%)	A	A	・ みどりの少年団活動は環境保全意識を高める大変よい取組となっているので、今後も積極的に取り組んでもらいたい。	A	無言清掃の取組が、本校の良き伝統として引き継がれていくよう、児童の意識をさらに高めていきたい。
	② みどりの少年団活動に取り組んでいるか(児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100% (100%) 教師 90% (100%)	A				今後も様々な少年団活動を行い、緑豊かな郷土づくりに努める態度の育成を図っていく。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和4年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【3 健康・安全の向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 体力向上プランに基づいた運動の習慣化 ○ 新体力テストによる体力賞取得50%以上	① 運動に興味を持ち進んで運動や外遊びをするか(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	・ 外遊びを励行していただき、今後も継続して子どもたちの体力向上に取り組んでもらいたい。	A	体力向上につなげるために、今後も外遊びを励行していく。 運動課題である「柔軟性」と「握力」は、日々の取組により効果が見られている。継続して取り組んでいきたい。
	② 新体力テストによる体力賞の児童が50%以上を目指す。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (65%)	A			
(2) 望ましい食習慣の形成 ○ 諸塚学校給食の日を通した食に関する意識の向上	① 朝ごはんをきちんと食べているか(児童・保護者アンケートのA・B評価80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%)	A	・ 保護者の評価から、家庭においては「好き嫌い」をしている様子が窺えるので、家庭への啓発をお願いしたい。	A	生活リズムを整えることの大切さは、今後も継続して指導を行っていく。 保護者と連携を図り、家庭においても好き嫌いせずマナーよく食べることの習慣化を学校と家庭が連携して指導を行っていく。
	② 好き嫌いをせずマナーよく食べているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者66% (96%) 教師100% (93%)	B			
(3) 健康診断等の結果を基にした計画的な指導 ○ むし歯治療及び予防の取組の強化	① 歯磨き等、むし歯予防の習慣化ができているか(児童・保護者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者97% (100%)	A	・ 様々な取組、呼びかけ等がよい結果につながっている。治療率85%まであと少しなので、継続して家庭への呼びかけを頑張ってください。	A	むし歯予防の習慣化が図られてきている。継続して指導を行っていききたい。 年々、歯の治療率が向上している。今後も家庭への啓発に力を入れていく。
	② 歯の治療率85%を目指す。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (96%) 教師94% (79%)	A			
(4) 危機回避能力の育成 ○ 避難訓練等による安全意識・技能の向上	① 交通事故等にあう児童を1名も出さない。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	・ ①達成状況指標の文言になると0%か100%の評価となるので、内容の検討を行った方がよい。 ・ 避難訓練については、今後も様々な改善を行いながら、子どもたちの危機回避能力を高めて欲しい。	A	事故を未然に防ぐため、今後も具体的な場面指導の徹底を図っていく。 本年度、土砂災害防止教室後、すぐに全保護者に迎えに来ていただく風水害避難訓練を実施することができ、子どもたちの安全意識を高めることができた。
	② 避難訓練における児童アンケートで、主体的に動く児童の達成率85%を目指す。(児童・教師アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 教師98% (100%)	A			

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和4年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【4 家庭・地域との連携】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 地域素材の活用、人材との連携 ○ 教育活動への積極的な活用 ○ C学習の推進	① 地域素材・地域人材の全年2回以上の活用を目指す。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (95%) 教師 100% (100%)	A	A	・先生方が、地域の伝統行事や祭り等に積極的に参加してもらい、地域の方々が大変喜ばれている。参加することで、地域の方々は「学校のためなら協力したい」という思いにつながるので、今後も地域行事に参加してもらいたい。 ・先生方の異動に関わらず、地域と学校が絶え間なくつながり合っているように、職員間での引継ぎをしっかりと行って欲しい。	A	地域人材・地域素材の活用について全職員でより一層の共通理解を図り、活用促進を図れるようにしていく。
	② 学校は、児童に「ふるさと」のよさを感じさせているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (100%) 教師 100% (100%)	A				様々な体験活動後に、地域の方に「ふるさと」のよさを感じることができる講話をしていただく等、質的改善に取り組んでいく。
	③ キャリアパスポートの活用を図った取組により、自身の成長を感じさせているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 97% (93%) 教師 100% (100%)	A				保護者の方のキャリアパスポートへの理解が深まっている。今後も機会あるごとに家庭へ持ち帰らせることで、保護者と共に児童の成長を喜び合える記録にしていきたい。
(2) 開かれた学校づくりの推進 ○ 定期的な情報発信(ホームページ、学校便り) ○ 地域に貢献できる活動	① 学校便り(月1回)、学級通信(週1回以上)を発行し、学校ホームページを週に1回以上は更新する。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 88% (99%) 保護者 100% (100%) 教師 100% (100%)	A	A	・今後も積極的に学校の取組の様子を発信していただき、保護者や地域を元気にして欲しい。 ・学校全体(教職員同士の人間関係を含めて)の雰囲気の良いを感じる。今後も、コミュニティ・スクールの推進・発展に向けて、地域と協働した取組の充実を図ってもらいたい。	A	担当者が、魅力ある内容のホームページを日々更新していることもあり、保護者・地域の皆様の関心度が高い。今後も児童の活躍場面を積極的に発信していきたい。
	② 保護者・地域の方々と協働した取組による、コミュニティ・スクールの推進を図ることができているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (96%) 教師 100% (100%)	A				次年度も、保護者・地域の方々とコミュニティ・スクールの推進に向けて熟議を重ね、「地域と共に発展する諸塚小学校」を目指して取り組んでいきたい。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和4年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【5 特別支援教育の推進】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 特別支援教育体制の整備・運営 ○ 校内研修、ケース会議等の充実 ○ 個の実態把握とそれに応じた指導の工夫	① 学校は児童一人一人の個性と実態を理解し、それに応じた指導を行っているか(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 86% (100%) 保護者 97% (92%) 教師 100% (100%)	A	・ 全体としての評価は十分だと感じられるが、児童の評価が昨年度より下がっていたため、より一層個に応じた指導の充実を心掛けていただきたい。	A	外部講師を招聘し、「子どもに響く言葉かけ」について研修を行ったことで、担任一人一人が自らの指導を見つめ直すよい機会となった。今後も、関係機関との連携を図りながら、個に応じた指導の充実が図られるようにさらに研修を深めていきたい。
(2) 幼稚園や関係機関等との連携 ○ 定期的な情報交換	② 学校と幼稚園は児童について双方の職員が理解し、連携した指導を行っているか(保護者・教師アンケートのA・B評価90%以上)	保護者 97% (86%) 教師 100% (100%)	A	・ 幼稚園と小学校は、年間を通して様々な活動や研修会を実施することができており、情報交換はもとより、園児・児童の児童理解につながっている。今後も合同で取り組める活動がないか模索していただき、積極的なかかわり合いをお願いしたい。	A	幼小合同ハートフル委員会等を通して、幼稚園・小学校が共に情報や課題を共有しながら、同じ支援体制で子どもたちに係わることができた。 幼稚園が併設されている利点をさらに生かし、情報交換はもとより、様々な活動を合同で行うことより、さらに連携した取組の充実を図っていく。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

